

こうのだい
通信

上村直実名誉院長が第23回「高峰記念第一三共賞」の受賞決定しました

国府台医療センター上村直実名誉院長に2025年度（第23回）「高峰記念第一三共賞」が贈られることが決まりました。上村先生は2010年から2018年まで同センターの院長を務められました。第一三共賞は、2003年に公益財団法人第一三共生命化学研究振興財団によって創設されました。同賞は、生命科学、特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究の進歩発展に顕著な功績をあげたことに加え、現在も活発な研究活動を行い、今後の一層の活躍が期待できる研究者に贈られる賞です。



2003年に始まった「高峰記念第一三共賞」は、今年が第23回で、昨年2024年までの受賞者には、NCGM時代から現在のJIHSに至るまでに所属していた方として門脇孝元理事（2型糖尿病の分子機構解明）や満屋裕明研究所所長（AIDSに対する治療薬の開発）が受賞されています。IPS細胞を開発された山中伸弥博士などほとんどの受賞者が基礎的研究の業績によるものですが、臨床研究の業績による受賞は今回の上村先生がはじめてです。

現在では、胃がん患者のほとんどがヘリコバクター・ピロリ（ピロリ菌）感染を原因として発症することがよく知られていますが、上村先生の受賞理由は、ピロリ菌によるヒト胃がん発症に関する臨床的研究において、『ピロリ菌感染が胃がんの原因であること』（NEJM誌2001年）および『除菌治療により胃がんの発生を抑制する可能性』（CEBP誌1997年・The Lancet 2008年）を世界ではじめて報告した功績によるものです。

◇プレスリリースは「[こちら](#)」からご覧ください。

* * * 高峰譲吉とは * * *

高峰譲吉（富山県高岡市生まれ／1854年～1922年）は、36歳で渡米し、世界初の消化酵素薬「タカジアスター」（タカジアスター）とホルモン「アドレナリン」を発明した化学者です。

年度	氏名(所属機関は受賞時)	受賞研究
第1回 2003年	北村 幸彦 教授 大阪大学大学院生命機能研究科	肥満細胞とカハール介在細胞の分化と癌化
第2回 2004年	門脇 孝 教授 東京大学大学院医学系研究科	2型糖尿病の分子機構の解明
第3回 2005年	坂口 志文 教授 京都大学再生医科学研究所	制御性T細胞による免疫応答制御の研究
第4回 2006年	柴崎 正勝 教授 東京大学大学院薬学系研究科	原子効率の革新を志向した不斉触媒の創製
第5回 2007年	満屋 裕明 教授 熊本大学大学院医学薬学研究部	AIDSに対する治療法の研究・開発
第6回 2008年	山中 伸弥 教授 京都大学物質-細胞統合システム拠点	多能性幹細胞の維持と誘導
第7回 2009年	杉山 雄一 教授 東京大学大学院薬学系研究科	薬物体内動態における薬物トランスポーターの役割解明－薬物動態の定量的予測を創薬に活かす－
第8回 2010年	河岡 義裕 教授 東京大学医科学研究所	インフルエンザ制圧に関する研究
第9回 2011年	間野 博行 教授 自治医科大学分子病態治療研究センター	肺がん原因遺伝子の発見と分子診断法・分子標的療法の実現
第10回 2012年	岩坪 威 教授 東京大学大学院医学系研究科	アルツハイマー病における β アミロイド形成機構・抑制薬に関する研究並びに画像・バイオマーカーを用いた治療薬の開発研究
第11回 2013年	山本 雅之 教授 東北大学大学院医学系研究科	環境ストレスに対する生体応答メカニズムの解明
第12回 2014年	山本 一彦 教授 東京大学大学院医学系研究科	ヒトの自己免疫疾患における抗原特異的免疫応答に関する研究
第13回 2015年	一條 秀憲 教授 東京大学大学院薬学系研究科	ストレスシグナル分子機構の解明と創薬医療科学基盤の創成
第14回 2016年	水島 昇 教授 東京大学大学院医学系研究科	オートファジーによる細胞内分解の分子機構と生理・医学的意義に関する研究
第15回 2017年	小川 誠司 教授 京都大学大学院医学研究科	成人T細胞白血病の分子基盤とがんの免疫回避に関するメカニズムに関する研究
第16回 2018年	井ノ口 馨 教授 富山大学大学院医学薬学研究部	記憶の連合とアイデンティティの物理化学的実体とメカニズムに関する研究
第17回 2019年	柳沢 正史 教授・機構長 筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構	生体ホメオスタシス制御機構の解明と疾患治療への応用
第18回 2020年	岡野 栄之 教授 慶應義塾大学 大学院医学研究科	神経幹細胞の基礎研究と臨床応用
第19回 2021年	濱田 博司 チームリーダー 理化学研究所生命機能科学研究センター	哺乳動物の胚発生の基本的な仕組みの研究
第20回 2022年	大野 博司 副センター長 理化学研究所生命医科学研究センター	宿主-腸内細菌相互作用の統合的理学に関する研究
第21回 2023年	藤堂 具紀 教授 東京大学医科学研究所先端医療研究センター	遺伝子組換えウイルスを用いたがんのウイルス療法の開発研究
第22回 2024年	竹田 潔 教授 大阪大学大学院医学系研究科 本田 賢也 教授 慶應義塾大学 大学院医学研究科	宿主と腸内細菌叢の相互作用に関する先駆的業績
第23回 2025年	上村 直実 名誉院長 国立健康危機管理研究機構 国府台医療センター 畠山 昌則 部長 微生物科学研究所 第3生物活性研究部	ヘリコバクター・ピロリ（ピロリ菌）によるヒト胃がん発症に関する研究